

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501297		
法人名	株式会社システム通信		
事業所名	グループホーム「和」みずもと		
所在地	北海道室蘭市水元町53番地12号 (電話) 0143-84-8677		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年7月24日	評価確定日	平成20年10月1日

【情報提供票より】(平成20年7月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り (単独型)		
	2階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	13,000~18,000 円
敷 金	有 (100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(7月24日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	10 名	要介護2	6 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 78 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柳川内科医院、すずき歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「和」みずもとは、室蘭市の住宅街に位置し、自然環境にも恵まれた場所にある。2ユニットの建物内には、その名称の由来でもある「和」の空間を意識した、様々な昔懐かしい家具や道具を置き、建物内部の作りも和風建築を意識しており、利用者が落ち着いてくつろげる住環境である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の地域への啓発については、目標を立てるなど検討しているが、実現するまでには至っていない。また、洗濯機周辺の洗剤等の物品管理については、改善しているが、今後は更に、冷蔵庫の上の利用者が手の届く場所に、うがい薬や消毒液を無造作に置かないようにするなど、引き続き、物品管理全般への安全意識を持って改善するよう期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>それぞれのユニットで、職員全員で話し合っ自己評価をし、評価項目から求められているサービスの内容を検討するなど、質の向上に対する意識を持っている。また、その結果については、冊子にして各ユニットに置き、来訪者も見ることができるようになっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、利用者の家族・町内会の役員・市職員・地域包括支援センター職員が参加して、2ヶ月に1度実施しており、事業所の運営状況を報告し、話し合いを行い、意見や助言を求めるなどし、運営に活かしている。前回の外部評価の結果についても、報告している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付担当者を決め、苦情の受付方法について家族に伝えている。また、担当者だけではなく、全職員が、面会時など随時に家族の意見や希望を聞いている。また、その内容については、随時話し合いを行い、必要な対応を行うとともに、事業所運営に反映している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の立地条件が良く、地域の住宅地の中にあることで住民との距離関係は近く、また、地域のイベントへの参加も行っている。しかし、日常的な住民との交流機会が少ないため、今後は、積極的に地域住民と交流機会を作る取り組みが求められる。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげており、その内容もわかりやすいが、地域との関係性に触れた内容となるまでには至っていない。	○	地域密着型サービスとしての役割を意識して、理念の中に地域との関係性強化をうたった内容を取り入れるよう、検討することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で理念の確認を行うなど、管理者や職員は、常に理念を意識したサービス提供を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りに参加したり、町内会の草刈に利用者が参加協力するなどの取組みを行っている。しかし、そうした機会が徐々に減っており、日常的な地域住民との交流機会はほとんどない。	○	地域の行事などに、積極的に参加することが望まれる。また、地域住民が事業所を訪問できる機会を作るなど、日常的に地域の住民と交流する取組みを行うよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ユニットごとに職員全員で話し合い、結果をまとめ、冊子にして、来訪者が自由に見ることができるようにしている。外部評価結果も職員に伝え、運営推進会議でも報告し、改善への取組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・町内会の役員・市職員・地域包括支援センター職員が参加して、2ヶ月に1度実施しており、事業所の運営状況を報告し、話し合いを行い、意見や助言を求めするなどし、運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所側から、市の担当者等に特別な情報提供を行ったり、関係を築く取り組みを行うまでには至っていない。	○	今後は、市の担当者への事業所情報の提供を積極的に行い、事業運営や問題解決に際し、連携協働できる関係を築くよう取り組むことを期待する。また、家族宛に作っている広報誌を、市の担当者にも送るなどの取り組みも期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全利用者の家族に、毎月文書で月次報告を行っている。また、3ヶ月ごとに広報誌を送っているほか、随時の電話連絡を行い、利用者の状況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者を決め、苦情受付方法について家族に伝えている。また、担当者だけではなく、全職員が面会時などに、家族の意見や希望を聞いている。その内容については、随時話し合いを行い、必要な対応をとるとともに、事業所運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職に伴う職員の入れ代わりで、ユニット間の職員配置転換があり、利用者や職員の馴染みの関係に影響を与えることもある。職員は、異動の際の利用者へのダメージについて不安を持ち、軽減策を模索している。	○	ユニット間の職員異動は必要最低限にとどめ、利用者や職員の馴染みの関係が途絶えないような配慮が望まれる。また、やむを得ず異動を行う場合は、ダメージを最小限にとどめるように、利用者や家族に十分に説明をするとともに、管理者は異動対象職員やその他の職員にも、十分な同意を得る対応を行うことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは、全職員が順番に参加機会を持つよう取り組んでいる。しかし、参加職員から他職員に対して、研修内容の伝達を行うまでには至っておらず、また内部研修等の事業所内におけるスキルアップの機会やシステムがない。	○	会議等の外部研修に参加した職員から、その研修内容を、他の職員に伝達する機会を作るよう期待する。また、内部研修を定期的に行い、事業所内部においても職員のスキルアップに取り組むことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭市グループホーム連絡協議会に加入しており、定期的に情報交換の会議を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者は、希望に応じて、事前に数日間の体験利用が可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者や家族の希望や好みを考えながら、職員と利用者が協働して、和やかな雰囲気のなかで生活を送ることができるような支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の過去の生活習慣や好みを確認して、現在の生活に活かす支援方法を検討し、実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの介護計画を作成している。しかし、アセスメントをしておらず、課題や目標の設定における根拠が不明確で、生活全般を通じた支援計画となるまでには至っていない。また、利用者又は家族から、計画の同意を得ておらず、計画書の交付も行っていない。計画作成の為のカンファレンスなど、職員間の話し合いを行うまでには至っていない。	○	計画作成に際しては、必ずアセスメントツールを用い、職員間で話し合いを行って、具体的なサービス計画を作成するよう期待する。また、計画書は、原案を利用者又は家族に説明し、同意を得た上で交付するよう、早急な改善が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書は、一定期間ごとに作成されているが、定期的な評価と見直しを行うまでには至っていない。利用者や家族・関係者との話し合いを行うまでには至っていない。	○	目標設定期間に応じて、課題に対する目標達成度やサービス内容について評価を行い、必要に応じて、利用者本人・家族・必要な関係者と話し合い、随時計画の見直しを行うよう期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて、特別な外出の支援を随時行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外にも、利用者のかかりつけ医が所属する医療機関への受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対応できる体制にはなく、それに向けた取り組みを検討し始めた段階である。	○	経営者や管理者は、今後は医療連携加算の算定を視野に入れ、重度化や終末期への対応体制を整備したいと考えており、その実現に向けて取り組むことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を尊重した、言葉かけや対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや、希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食卓について、さりげなく支援しながら、摂食介助を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯を決めていないが、職員の勤務体制により夜間の入浴希望に応じられる体制には至っていない。	○	利用者が入浴を希望しなかったり、入浴拒否が見られるときも、体調の悪化がない場合は、支援者を変えたり、時間を置いて対応するなど工夫して、必要最低限の入浴回数を確保することが望まれる。また、夜間入浴の希望に応えられるよう、職員配置の工夫に努めるよう期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の生活歴や職歴を、把握することに努めており、その中で、利用者ができる行為を考えて、役割作りに結び付けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブなど、可能な限り外出機会を設けて、利用者が戸外に出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関等に鍵をかけていない。利用者が外に出ようとする際に、職員がそれに気付かないことを防ぐ目的で、引き戸式の玄関内戸を開けると、チャイム音が鳴り知らせている。	○	玄関内戸の開け閉めのたびにチャイム音が鳴り響くのは、利用者にとって、生活の場の雰囲気や乱される不快音とを感じる場合もあり得る。また意味のない音は、認知症の方にとって、混乱要素やストレスの原因にも繋がる可能性があること等を考慮し、職員の見守りや注意力を向上させることで、音に頼らない安全確保の方法を考えることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防・避難訓練を行っており、そのうち1回は、夜間想定訓練を行っている。消防署への報告も行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士等の専門職による献立への介入はないが、職員は、献立作りや実際の調理に際し、栄養バランスに気を配って、野菜を多く採り入れた食事提供を行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や照明に問題はない。また、リビングからは、季節感が十分味わえる景色が眺望できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、ベッドや家具・カーテンを持ち込んで、利用者それぞれの個性に合わせた居住空間を作り、居心地良く暮らせる状態となっている。		

※ は、重点項目。